

令和6年度 評価から評定への総括方法について

単元の評価計画に基づき、それぞれの評価の観点における評価規準に従って、学習活動のまとまりごとに評価を実施する。そして、学習活動のまとまりごとに見られた観点別評価を総括し、単元における評定とする。

○総括の方法

- (1) 評価計画に基づき、各単元の活動のまとまりごとに、授業中、あるいは授業後における観察、学習カードの記入状況、作品、ワークテストなどにより、A・B・Cで観点別評価を行う。
- (2) A・B・Cを3・2・1で数値化する。各観点の合計点が、満点のおおむね90%以上であればAまたは3、おおむね65%以上90%未満であればBまたは2、65%未満であればCまたは1と設定して評定する。

【例】観点別評定

主体的態度	B A A B A = 2+3+3+2+3=13	→ $13/15 \times 100 = 86.7\%$	→ A
思考・判断・表現	A A A B = 3+3+3+2=11	→ $11/12 \times 100 = 91.7\%$	→ A
知識・技能	A A B = 3+3+2=8	→ $8/9 \times 100 = 88.9\%$	→ A
	B C B C C = 2+1+2+1+1=7	→ $7/15 \times 100 = 46.6\%$	→ C
	A B B C = 3+2+2+1=8	→ $8/12 \times 100 = 66.6\%$	→ B

【例】評定

◆主体的態度 A	思考・判断・表現 A	知識・技能 B	
3+3+2=8	→ $8/9 \times 100 = 88.9\%$		→ 評定 3
◆主体的態度 A	思考・判断・表現 A	知識・技能 C	
3+3+1=7	→ $7/9 \times 100 = 77.8\%$		→ 評定 2
◆主体的態度 A	思考・判断・表現 B	知識・技能 B	
3+2+2=7	→ $7/9 \times 100 = 77.8\%$		→ 評定 2
◆主体的態度 B	思考・判断・表現 B	知識・技能 C	
2+2+1=5	→ $5/7 \times 100 = 55.6\%$		→ 評定 2
◆主体的態度 B	思考・判断・表現 C	知識・技能 C	
2+1+1=4	→ $4/9 \times 100 = 44.4\%$		→ 評定 1